

千葉

CHIBA
chiba@mainichi.co.jp

家族連れなどでにぎわった
メガソーラーシェアリング
の収穫祭—匝瑳市飯塚で



太陽光発電所の 収穫祭にぎわう

匝 瑳

ソーラーパネルの下で農業を行う「ソーラーシェアリング」を実施している匝瑳市飯塚の「匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所」で17日、収穫祭があった。地球をかたどったみこしが登場したほか、もちつきなども行われ、家族連れなどでにぎわった。

同発電所は耕作放棄地などを使って2017年に発電を開始した。約3万2000平方メートルの敷地に高さ約3メートルの架台を設け、約1万4000枚の発電パネルを設置する、ソーラーシェアリングでは国内最大規模の発電所だ。昨年の年間発電量は一般家庭約300世

帯分の年間消費量に相当する156万キロワット時になる。パネルは光の遮蔽を少なくするためにスリム型を使い、直下で大豆や麦類などを育てている。災害にも強く、9月の台風15号、10月の19号でも被害はなかったという。

【近藤卓資】